

2023年1月10日

アジア研究図書館

| | |
|--|---|
| カリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館調査記 (河野 正) | 1 |
| アジア研究図書館活動報告 | 4 |
| 「アジア研究図書館資料セミナー:中国仏教研究資料探索」開催報告 (河野 正) | |
| アジア研究図書館利用案内 | |
| 次号の予定 | |
| 編集後記 | |

編集・発行: 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門
(RASARL)

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学附属図書館 アジア研究図書館担当

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>

カリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館調査記

河野 正

(附属図書館アジア研究図書館研究開発部門 助教)

カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)東アジア図書館は同大学チャールズ・E・ヤング リサーチ図書館(Charles E. Young Research Library)内に位置する東アジアに特化した研究図書館である。2013 年 6 月時点で 76 万 4,737 冊の資料を所蔵し、その内 36 万 7,496 冊が中国語、27 万 8,958 冊が日本語、6 万 2,756 冊が韓国朝鮮語である¹。UCLA 東アジア図書館は全米で 10 番目に大きな東アジア図書館とされており、中国・日本・韓国朝鮮それぞれの地域に専門のサブジェクト・ライブラリアンとカタログが置かれている。

正式名称はリチャード・C・ルドルフ 東アジア図書館(Richard C. Rudolph East Asian Library)である。チャールズ・E・ヤングは長きにわたり UCLA 総長を務めた政治学者であり、リチャード・C・ルドルフは UCLA の中国研究者であり、また現在の東アジア図書館の核となる蔵書を収集した人物でもある。

UCLA 東アジア図書館は当初、東洋図書館(Oriental Library)の名で 1948 年に設立された。当時は UCLA の「総合図書館」的図書館であるパウエル図書館(Powell Library)の一角に設けられた。チャールズ・E・ヤング リサーチ図書館の設立に伴い、1971 年に現在の場所に移転した。

余談であるがパウエル図書館は東京大学総合図書館とほぼ同時期の 1929 年に建設された、総合図書館と同様に荘厳な図書館である。その一角に設けられたアジア図書

館ということで、何かと親近感を感じてしまう。なお、パウエル図書館はロマネスク様式、総合図書館は内田祥三による「内田ゴシック」である。

UCLA 東アジア図書館の最初の核となる蔵書は 1948～1949 年に収集されている。それはルドルフがフルブライトの助成による初の中国への渡航者の一人として、1948 年に中国に渡ったことと関係している。国共内戦末期のこの時期に中国へ渡ったルドルフは戦火の中で書籍の収集を行った。内戦の最末期、1949 年 6 月に中国を離れた際には日本経由で帰国し、日本でも書籍の収集を進めている。これらの書籍は合わせて 1 万冊以上にのぼった。

さて筆者は、コロナ禍の 2020～2021 年を除いて、2015 年以来毎年 UCLA 東アジア図書館を訪れている。それは『中共重要歴史文献資料彙編』という資料の閲覧のためである。本資料は中国国内で出版された中国共産党の内部刊行物が、ロサンゼルス市の「中文出版物サービスセンター(中国語の「中心」は「センター」の意)」という出版機関によってリプリントされたものである。「劉少奇專輯」や「林彪專輯」など中国共産党関係者個人に関するものから、「50 年代後期“反右派”和“反右傾”運動歴史資料專輯」のような政治キャンペーンに関するもの、「1949 年以来中共内部党刊資料專輯」のような定期刊行物を集めたもの、「稀見統計資料專輯」のような統計類まで内容は広きにわたる。

これらがテーマごとに第 1～35 輯および

特輯に分けられ、それぞれが複数の分冊に分かれている。UCLA 東アジア図書館では複数の書架を占領している超大型の資料集であり、現在も刊行が続き、ボリュームを増し続けている。

本資料集の刊行は 1995 年に始まった。しかし一研究者としての感覚では、本資料集が注目を集め始めたのは最近 10 年ほどかと思われる。それは恐らく現代中国研究を取り巻く環境の変化が関係している。

すなわち、1990 年代から 2010 年前後まで、多くの中国研究者は中国国内の檔案館と呼ばれる文書館に行き、檔案と呼ばれる未刊行の公文書を収集して研究を行っていた。この間、多少の困難はあり、また国立公文書館に相当する中央檔案館の資料は事実上未公開だったものの、北京や上海など大都市や沿海部の諸省では直轄市・省レベルの檔案を利用することができた。また共産党の内部刊行物についても、古書市場などで見かける機会は多く、その入手は必ずしも難しいものではなかった。

このような環境においては、研究者たちはアメリカで出版された資料に対してあまり関心を持たなかったと言える。しかし 2010 年代初頭を境に、多くの檔案館は外国人に門を閉ざし、また古書市場などでの資料収集にも様々な困難が発生した。そのような状況下で、中国の内部資料でありながら中国国外で刊行される本資料に注目が集まったのは当然の流れとも言える。

さて非常に冗長な前置きとなったが、2022 年 8 月～9 月に UCLA 東アジア図書館へ『中共重要歴史文献資料彙編』の閲覧・収集に行ったというのが本稿の趣旨である。本資料は日本国内の機関を含む多くの大学や研究機関に所蔵されているが、非常に膨大なため、全て網羅しているところは稀である。その数少ない全て網羅している機関が UCLA 東アジア図書館とオーストラリア

国立図書館であり、近年筆者を含む多くの現代中国研究者が、このどちらかの機関を利用している。

UCLA は上述のパウエル図書館をはじめとして、22 の図書館を有している。それらはコロナ禍で一時期予約制になった時期や、UCLA の学生・教職員しか利用できない時期が存在していたが、原則として Open for Public、すなわち入館手続きなど不要で誰でも利用可能である。また閲覧室内でのカメラ・スキャナ等の使用も自由である。加えて『中共重要歴史文献資料彙編』は最近まで全て開架書架に置かれていた（最近、スペース不足のため一部の資料をキャンパスの端にある閉架書庫へ移管した）。そのため事前手続き等一切不要で、また複写費用なども発生することなく貴重な資料を自由に撮影・スキャンできる、研究者にとって非常に恵まれた環境にある。また、授業期間中であれば土日でも開館し、平日は 8～20 時開館というのも短期滞在者には大変ありがたい。そのような利便性により、本年度の調査は 1 週間の滞在だったが、予定した大部分の資料を収集することができた。

最後に、東京大学内の複数の部局で『中共重要歴史文献資料彙編』を購入済であり、2023 年度にアジア研究図書館へ移管される見込みであることにも触れておきたい。本資料を利用した更なる研究の活性化に期待したい。



UCLA Powell Library



UCLA キャンパス風景

¹ UCLA 東アジア図書館に関する以下の情報は、UCLA 東アジア図書館公式サイト (<https://www.library.ucla.edu/location/east-asian-library-richard-c-rudolph/about>)を参照。

アジア研究図書館活動報告

「アジア研究図書館資料セミナー：中国仏教研究資料探索」開催報告

(RASARL 河野 正)

去る 2022 年 10 月 12 日 (水)、東京大学本郷キャンパス法文 1 号館にて、「アジア研究図書館資料セミナー：中国仏教研究資料探索 (共催：大学院人文社会系研究科「日本仏教文献研究 (2)」)」を開催した。本セミナーはアジア研究図書館および研究開発部門発足後、研究支援として開催された初のセミナーである。当館から研究開発部門助教である河野が登壇した。

本セミナーは主に中国仏教研究を志す大学院生を対象に、中国語圏における研究動向の紹介や、関連資料・文献のアクセス方法等の紹介を行った。当日はインド哲学仏教学研究室の大学院生を中心に、約 10 名が参加をした。

登壇者による発表の後、質疑応答の時間が設けられた。参加者からは東京大学外でのデータベース利用や、中国語圏における単行本の刊行情報、漢籍資料のデジタルデータベース利用方法などについて質問がされた他、中国国内の研究動向とのその背景についての質問もなされた。

上述の通り本セミナーはセミナーシリーズとして第 1 回に当たり、当館として初の試みである。今後も需要に応じて他の分野、他のテーマについても開催する方針である。

アジア研究図書館利用案内

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/user-guide>

| | |
|---------|--|
| 場 所 | 総合図書館4階 |
| 開館日／閉館日 | 総合図書館の開館日・閉館日に準じます。 |
| 開館日 | 以下閉館日を除くすべての日 |
| 閉館日 | 年末年始(12月28日～1月3日) 定例休館日(おおむね毎月第4木曜日) 夏季の一斉休業日(2日間) 試験等大学行事のための閉館日 その他臨時閉館日 |

開館時間

| | 曜日等 | 通常期 | 8月・3月 |
|--|--------|------------|------------|
| | 月～金曜日 | 8:30～22:30 | 8:30～21:00 |
| | 土・日・祝日 | 9:00～19:00 | 9:00～17:00 |

学外の方もご利用いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/outside/gakugai>

次号の予定

第11号は令和五年四月一日に発行予定です。

ニューズレターへの情報提供、投稿や、記事へのご要望があれば、東京大学アジア研究図書館 ([asia.lib\[at\]lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:asia.lib[at]lib.u-tokyo.ac.jp))までお知らせ下さい。

編集後記

第10号をお届けします。

年末年始、空いた時間はサンスクリット語で書かれたジャイナ教文献の原文入力に追われました。インド諸言語の文献にはGRETILという巨大なデジタルコーパスがありますが、ジャイナ教文献のデジタル化は残念ながらほとんど進んでいません。大幅にリニューアルされた国立国会図書館デジタルコレクションや「みを」からすれば、アナログの極みといってよい作業ですが、少なくとも私の場合は「なんとなく原文を読みながら」打ち込んでいるようで、単調な作業のなか新たな研究の芽をいくつか得たことは幸いでした。(J)